

【本文】

九月二十日のころ、ある人に誘はれたてまつりて、明くるまで月見ありくことはべりしに、おぼし出づる所ありて案内せさせて入りたまひぬ。

荒れたる庭の露しげきに、わぎとならぬにほひ、しめやかにうちかをりて、しのびたるけはひいとものはれなり。

よきほどにて出でたまひぬれど、なほ事ざまの優におぼえて、物のかくれよりしばし見わたるに、妻戸をいま少し押し開けて、月見るけしきなり。やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。

あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。かやうのことは、ただ朝夕の心づかひによるべし。

その人、ほどなく失せにけりと聞きはべりし。

【読解】

九月二十日のころ

* () ()には人物(その人/ある人/兼好)
()には適切な言葉を入れましょう

●九月二十日の月…()



ある人…兼好より身分が()

根拠 ↓

誘はれたてまつりて ()

おぼし出づる所ありて ()

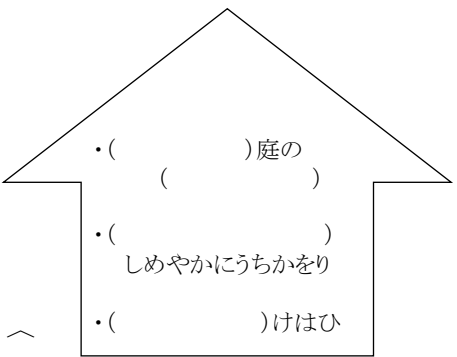
出でたまひぬ ()

語 語 語



兼好の感想

おぼし出づる所
=
()の家



よきほどにて出でたまひぬ

↓物のかくれよりしばし見あたる

やがてかけこもらましかば、

()…いかでか知らん

●後日談

ほどなく失せにけり ↓ 聞きはべりし